

NEW CROWN 授業実践事例

BOOK 2 LESSON 2 授業例①

Y.G. 先生

指導計画表

(全10時間)

時間	学習内容・主な活動
1	■ Lesson 2 Introduction ■ GET Part1 新出文法の導入 語句・表現の導入 新出文法の活用
2	■ GET Part1 本文の導入 本文の音読・黙読 本文の理解
3	■ GET Part2 新出文法の導入 語句・表現の導入 コミュニケーション活動
4	■ GET Part2 新出文法の導入 語句・表現の導入 コミュニケーション活動
5	■ GET Part2 本文の導入 本文の音読・黙読 本文の理解 コミュニケーション活動
6	■ USE Read 語句・表現の導入 本文の導入 本文の音読・黙読
7	■ USE Read 本文の音読・黙読 本文の理解 コミュニケーション活動

時間	学習内容・主な活動
8	■ USE Mini-project コミュニケーション活動 英作文
9	■ USE Mini-project グループワーク まとめ

実践例

1. 3年間を通して見た

BOOK2 Lesson2 とは？

これまで、本課が生徒たちにとっても、教師にとっても「難しい」という声を耳にしたことが何度かあった。特に「難しさ」を感じる部分は多数の新出語句やこれまでのUSE Readの中で最多となる本文語彙数(143語)、やや難しいと思われる題材などで、急にハードルが上がる感じがするのではないだろうか。

しかし、見方を変えると、それは、この課がこれまでの学習内容から一段、ステップアップする段階として、意味を持つからだとは考えられないだろうか。本課は「読む力」をつけるための最初の要所であり、この課をどのように指導するかで、以降の学習に大きく影響すると言ってもよいだろう。長文を読むことに対してアレルギー反応を起こすきっかけを作ってしまう可能性もあるが、逆に、読むことを「楽しい」「おもしろい」、更には「わくわくする」とまで感じられる素地を育成できる好機であるともいえる。この様に Lesson2 の意義を捉えることで、指導のポイントを明確にし、生徒たちに英文を読み、新たな発見ができる楽しさを伝える授業が展開できるのではないだろうか。

2. Mini-Project を到達目標とするプランを立てる

～4 技能の統合的に活用できる力を育成する～

BOOK2には年間を通じて3つのMini-projectが位置づけられており、その一つが本課に用意されている。このMini-projectは4技能を総合的に育成するための活動として大変重要である。私は、それぞれのMini-projectを山に例え、だんだんと高くなる3つの山に「様々な力」をつけながら登っていくイメージで学習指導をしていくことにした。(資料1)
一つ目の山として本課のMini-project位置づけ、その頂上でどのような活動をするか、頂上に辿り着くまでにどのような力を身に着けていけばよいかを示すため、以下の本課到達目標を設定した。

①友達の書いたエッセイを読んで大切な部分を読みとることができる。

②友達の書いたエッセイの内容を考えながら、なる

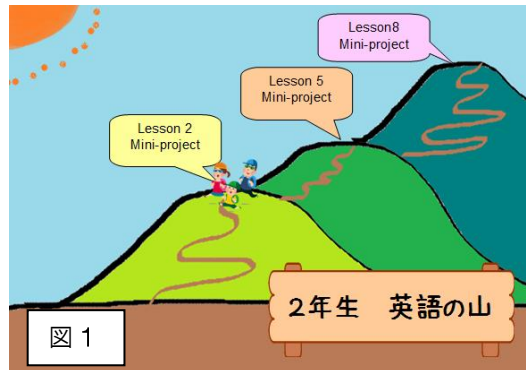
べく早く読むことができる。

③友達の書いたエッセイを読んで、簡単な感想を言ったり、質問をすることができる。

1. レッソンの最初の授業で生徒が到達目標をイメージできるように提示する

レッスンのスタート時には下のようなイメージ図

(図1)を示しながら、①これからどこに向かって行くのか(到達目標の提示)、②現時点でどの位置にいるのか(これまでの学習を振り返る)、③今回の山の頂上ではどのような活動をし、そこまでどのような力が必要なのか、を生徒に説明する。



以下のような Lesson2 Mini-project での活動内容や前述した本課到達目標を生徒に提示した。

Lesson2 Mini-Project 活動内容

友達の「自分史」を読んで大切な部分を読みとり、感じたことを伝えよう。

生徒たちからは「Mini-project までにどのような力をつければ良いのかを頭に置きながら、学習することができることで、安心して取り組める」という、感想が多く寄せられた。

3. Lesson2 は「読むこと」への姿勢を育む大切なレッスン～「読むこと」の具体的指導～

Mini-project を本課の最終到達地点とし、「読むこと」を中心に指導をしていく。本課の指導のポイントは以下のとおりである。

①興味、関心をもって英文読みに臨む姿勢を養う

こと。(長文を楽しく読む工夫)

- ②「読むこと」におけるスキルを指導すること。
(内容を早く正確に理解する方法)

まず、第一段階は USE Read までの具体的な指導を紹介する。

(1)第一段階：GETにおける指導

本課において「読むこと」の指導は英語の長文に対して、アレルギー反応を起こさせないようにすることも大目標の一つである。そのためには「英文を読むことは楽しい」と思える活動を行うことである。

①拍手読み(音読)

まずは、音読指導である。2年生のこの時期にただ音読させるのでは、飽きが来る場合もあるので、単語の発音やアクセント、文のイントネーションを意識して「英語らしく」読むことの指導を行った。生徒たち全員がスクリーンに映し出された本文を見ながら音読を行った。これは顔を上げ、声を前に飛ばすことができるメリットがある。さて、スライド(図2)の説明をすると、ピンクの丸は強く読む部分、緑色の丸は音がリンクする部分を示している。ピンクの部分は拍手をしながら読むと強く読むところが印象付けられ、英文らしく強弱のある読みのコツがつかめ、なによりも楽しく読めるのがよい。生徒のウケも大変良いものであった。

図2

Lesson2 Get Part1

Clean Up Day was exciting.
The second-year students worked near the river.
We picked up a lot of cans and bottles.
We were tired, but very happy.

②速音読

2年生から、「速音読」を導入している。一般的に WPM (word per minute) が読みの速さを測る単位として用いられる。この WPM には単なる速さを測るものと、速く文を読みながらどれだけ理解できたかを測るものがあるが、ここではまず、単純に速さを意識させて取り組ませることになっている。時間

(速さ)を意識させると生徒たちは理屈抜きで一生懸命に取り組む。速音読に至るまでにしっかり発音やイントネーションを練習して臨むことで、速音読の意味が深まる。速さの指標はリスニングテストで外国人が話すスピードであり、1分間に150語程度読む速さ(150WPM)であると言われている。例えば GET PART1 の本文を150WPMで速音読する場合は、 $28 \text{ 語 (本文語彙数)} \div 150 \times 60 \text{ 秒} = \text{約} 11 \text{ 秒}$

「よし! 11秒以内を目指そう!! 読めたら、ネイティブレベルだぞ〜!」と生徒たちのモチベーションを上げてから始める。ポイントは自分の声自分の耳に届くように読むこと。しっかり発音して読む、音のリンクを意識するなど意識して取り組む。読み終えたら、かかった秒数を専用のシートにメモしておく。これを家庭学習とリンクして生徒たちは取り組んだ。その結果、語彙数がたとえ増えたとしても、その数に対してどれくらいのスピードで読めるか、意欲を持って取り組める生徒が増えた。

③キーセンテンス/キーワード探し(黙読)

「読むこと」において、文中に何が書いてあるのか、関心を持って読もうとする態度を育成することもまた目標の一つである。また、おおまかなあらすじや大切な部分を把握する力の育成も求められている。本課では文中の最も大事だと思われる文を探し出す活動を通して、英文を理解する力をつけていく。グループワークを通して生徒たちはお互いに文中で最も大切だと思われるものを発表し合い、自分自身で最も大事だと思う1文を決定する。ここでは日本語で意見やその理由を出し合ったが、大変盛り上がる活動になった。文中にはそのような文や単語が存在しているという意識を持たせることができたと考えている。

④なりきりリーディング(音読)

「読むこと」指導の最終段階としてなりきりリーディングを行った。本文は健や久美による報告という形だったので、彼らになりきって英文を音読する活動をペアで行った。大切な部分を強く読んだり、また個人の感想の部分には自分なりの言葉を入れて読むという活動である。(図3)この活動の良いところは自分の気持ちが入られること、また、「聞く姿勢」を身に着けることができることである。生

徒にとっては知っている内容であるが、うなづきながら、または相づちを打ちながら聞く、キーセンテンスと思われる文を繰り返す、また聴き終わった後に、簡単な感想や質問を言う、というように、両方の生徒とも息の抜けない活動になり、これは Mini-project への大きな足掛かりになる活動にもなっている。

(図3) なりきりリーディング用スライド () の中に自分で考えた語句を入れて読む。

Clean Up Day was (exciting).
The second-year students worked near the river.
We picked up a lot of (cans) and (bottles).
We were (tired), but (very happy).

Your words!

(2) 第二段階：USE Read の具体的指導
 「どんな長文でも楽しく読むことができる」という意識を生徒たちに育むためにはどうしたらよいか。前述したように本課 Read は語彙数が多く、生徒にとってはかなり長く感じる長文である。なので「読むこと」の指導において単なる復唱による音読や黙読の活動から、意味を取ったり内容をとったりすることでは、長文嫌いが増えてしまう可能性がある。そこで、この Read に臨むときに、目標を提示することにした。

- ①143 語ある長文なので、最後は 57 秒以内に読める。
- ②それぞれの段落のキーセンテンスを発見できる。
- ③博物館の学芸員さんになったつもりで、地球の歴史について友達に図示しながら説明できる。

新出語句の導入、地球の成り立ちの話をして十分に興味・関心を高めたらスタートである。まずは読みの練習に入るが、速音読目標クリアのために、コーラス、パズなどで練習を積み、57 秒以内を目指す。次に長文読解には欠かせないパラグラフリーディングを指導する。本課ではそれぞれの段落の最初の

文(パラグラフセンテンス)を取り出してみると、カレンダーを作れるということがわかる。十分内容を理解した後、3人グループでプレゼンテーションを行った。長い文なので3分割し、紙の上に図示しながら英文を読む活動とした。聞く2人には相づちをうつなど聞く姿勢を意識させた。

5. Lesson2 Mini-project の進め方

前述したように、友達の「自分史」を読んで、内容について理解し、質問や感想を言う。これがこの課の到達点である。P18,19にある通りの流れで指導していくと、英文が書けるようになっていく。この流れを活用し、4技能を総合的に指導しながら、英作文を行っていく。今回は「書くこと」を重点項目としていないので、ワークシート(資料2)で短時間で5文程度の英文を完成させる。前述したように山の頂上はP19にあるTryの部分をアレンジしたものである。そして、評価の規準を整理すると、以下の通りである。

- ①いかに友達の「自分史」に興味、関心をもって読んでいるか。
- ②キーセンテンスを認識し、大切な部分を読みとることができたか。
- ③友達の「自分史」を読んで感じたことをどのように(どんな表現で)伝えることができたか。

授業では、生徒たちは小学校時代の思い出にふけりながら、楽しそうに友達の「自分史」を読んでいた。GET や Read で学習したスキルを生かし、キーセンテンスの抜き出しにも時間はかからなかった。読んだ後の感想等に用いる語彙がまだまだ足りない時期だが、随時導入し習得させておくことで、次回の Mini-project に繋げることができるだろう。

1. 「話すこと」「書くこと」の活動は 帯活動で

新出文法の指導と並行して Mini-project で必要とされる「話すこと」の指導を Input 活動や small talk などの短い会話練習、また「書くこと」では2文日記など、毎日の授業の最初に行うことで、表現するための知識をつけることができた。表現するための語彙力や英作文のスキルを高めていくには毎日の取り組みが必要である。

1. 最後に

何度も述べたように、本課は「読むこと」に対する意欲・関心を高める指導が不可欠であり、同時に読むためのスキルを指導することも忘れてはいけません。また Mini-project をいかに活用するかも重要である。長いだけでなく短いスパンの見通しを立てることで指導目的や方法が明確になり、生徒も安心して英語学習に励むことができると考えている。

(資料1) 年間を通した Mini-project への展開

